

GOOD DESIGN AWARD 2021

2021年度グッドデザイン賞をW受賞

GRANFECT 許の家

YAMASAHOUSE 鹿児島の家

特集 グッドデザイン賞受賞の **GOOD STORY**

この度、当社は「2021年度グッドデザイン賞」をW受賞いたしました。今回は受賞した『GRANFECT』『許の家』と『鹿児島の家』『素み家』を手がけたふたりの担当者に、誕生秘話や受賞までの道のり、評価されたポイントに加え、お施主様とのエピソードなどをうかがいます。



GOOD DESIGN
AWARD 2021

「グッドデザイン賞」とは、公益財団法人日本デザイン振興会主催の賞。毎年、デザインが優れたモノやコトに贈られていて、日本で唯一の総合的なデザイン評価・授賞の仕組みです。建物やビジネスモデルなど幅広い領域を対象にしています。

YAMASAHOUSE 許の家 02

「人とは、自然とは、鹿児島のよりよい住まいとは何か」

「特に、外観に思い入れがあります」と言うのは、2021年

テールまでこだわり抜きました」と岡本さん。

年度グッドデザイン賞を受賞した『GRANFECT』(以下、「GRANFE

CT」)を手がけた、当社の建

築士・岡本大樹さん。『GRA

NFECT』はヤマサハウスが

掲げる「人と自然との調和に

沿った家を」との想いで201

8年に開発がスタート。今回、

鹿児島の気候風土に合い、地

元の資材で元結、循環するシ

ステム、間取り変更が可能なシ

ームレスな生活空間が評価

されました。実際に「屋根ひと

つひとつも、「陶器瓦、棟、軒

裏、サッシと、素材から形、ディ

沿った家を」との想いで201

8年に開発がスタート。今回、

鹿児島のよりよい住まいとは

何か。一つひとつ考えました」。

さらに、全国各地に足を運び、

意匠、構造、設備など、建築の

根柢の部分を、あらためて洗

8年に開発がスタート。今回、

鹿児島のよりよい住まいとは

何か。一つひとつ考えました」。

ANFECT』です。



鹿児島のハウスメーカーとして、地域の材料や人材を生かしながら火山対策もするなど地域の気候風土に合った住宅を真摯に作っている姿勢が評価された。家づくりを通して、作る人と使う人をつなぐイベントもしたり、地域の盛りもりも作ろうとしているのは評価に値する。住宅も構造を工夫することで、大空間を実現させている。細部に至るまで丁寧にデザインされているのが見える。

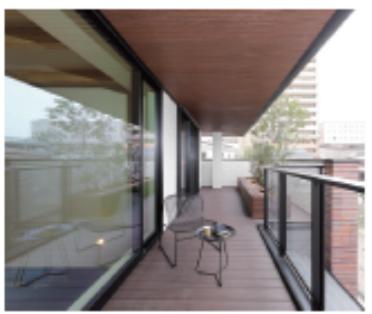
引用: <https://www.g-mark.org/awards/design/bs/52418>

3つのGOOD STORY



1 絆の家との絆

「GRANFECT」は、地域の暮らしは地域でつくるという考え方のもと、地元の資源を活用して、地元の大工職人が丁寧につくりあげます。木材は鹿児島県産の杉をふんだんに使用。地元の山から製材し、加工、施工まで、地産地消で元結する安定的なシステムを構築しています。この循環は、環境にも配慮されています。耐用年数をもつ陶器瓦、火



です。

南国・鹿児島は夏の強い陽射しや、シロアリ、桜島の火山灰、湿気、大型台風による影響など、その自然環境は険しくあります。こうした鹿児島の風土や気候と、上手に快適につきあえるのが「GRANFECT」。強い陽射しを遮る深い軒や、約60年の耐候性をもつ陶器瓦、火

2 次代へつなげる絆

山灰対策が施され、光触媒と抗菌作用を併せもつ防藻性能が

高い外壁など、あらゆる点において性能と長期的な安全性を確保しました。月日を経てもきれいに長持ちする外観や、耐震壁455mmと3.5間のスパン

という大きな構造ブロックで可

変性、安心して暮らせる高性能な家は、次代につながる住まい

です。



3 家族との絆

コロナ禍で新しい生活様式が提案され、家には汎用性のある

大空間が求められるようになり

ました。「GRANFECT」は、

鹿児島の恵みを感じられる、地元の木をたっぷりと使用した上質で温かみのある居室や、部屋を隔てる壁が少なく、開放感のあるシームレスな空間を実現。

日常生活中における心身の健康に配慮した空間構成や、つながりを感じながら家族が思い思いに過ごせ、区切るのではなく、距離をとる住まいは、新たな暮らしの場であり、新たな時代の生活空間と言えます。家族の絆をより大切に、より快適に暮らせる自由設計の家。それが、「GR



建築士
岡本 大樹・おかもと だいき

設計技術開発課所属。2010年の入社以来、主に商品開発を担当。2016年からは外構事業、2020年からは新ブランド「クラシックホーム」の商品開発も行う。2021年に持続可能な住まい『GRANFECT～絆の家～』がグッドデザイン賞を受賞。

「開発は原点回帰から始まりました。人とは、自然とは、鹿児島のよりよい住まいとは何か。一つひとつ考えました」。さらに、全国各地に足を運び、意匠、構造、設備など、建築の根柢の部分を、あらためて洗い直したそうです。

地元の職人が地元の資材を使用してつくる家は、「これまで地域が抱えていた、さまざま

な問題の解決」につながり求められています。





鹿児島のハウスメーカーによる良質な住宅の提案。台風が多く、日照時間が長い地域風土の特徴をうまくとらえ、平屋+屋根を基本とした無理なく、気持ちよく住み続けられるデザインとなっている。若い世代でも手に届くようなわりと小ぶりの住宅だが、子育てをしながら、空間を変更できるように可変性に着目した点も評価できる。家を建てる醍醐味は、ライフスタイルを育んでいくこと自体を家族で楽しめることである。

引用:<https://www.g-mall.org/award/detail?ba=52419>

鹿児島の家 成長し続ける「素み家」

「MOOK HOUSE」ブランドで家族とともに時を重ね、成長し続ける住まいを造りたい。その暮らしを叶える、「素み家」をテーマにしたシンプルな木の家。住まう人のスタイルに合わせ、使い方や間取りも自由にアレンジができます。また、その時代で住まいの完成形が変化する未完のデザイン、そして、成長し続ける「素み家」です。詳しくは本誌P10をご覧ください。

3つのGOOD STORY

未来へ長く 住み継ぐ住まい

四人家族のお施主様ファミリー。お子様たちはこれからどんどん成長されます。家に合わせて暮らすのではなく、家がライフスタイルに合わせて変化。未完のデザインである「鹿児島の家～素み家～」は、住まい手のままに、「素顔」のままに生活できる家です。変化しながら未来へ住み継いでいきます。



もつだわっています。

地域風土を活かした 住まいの素質

陽射しを遮る軒の出が、内と外をゆるやかにつなぎます。また、玄関を開けたときに街へと続く、緑のトンネルは地域との調和を保ってくれます。さらに、「鹿児島の家～素み家～」は北西からの卓越風が多い鹿児島の特性から、気持ちのいい風を呼び込みます。地域風土に合った、「素質」を活かした住まいです。



1 ありのままの「素顔」 成長し続ける家族

鹿児島で生まれ育った「自然素材」を活かし、この土地の職人の知恵と技術で「デザインした「鹿児島の家～素み家～」。地産地消の住まいは、快適で心地よい暮らしを演出します。

「大工さんが釘隠しの木を細工してくださいって、うれしかった」とお客様。「認証かこしま材」を使用するなど、素材にもつだわっています。



2 ありのままの「素材」 成長し続ける家庭

鹿児島で生まれ育った「自然素材」を活かし、この土地の職人の知恵と技術で「デザインした「鹿児島の家～素み家～」。地産地消の住まいは、快適で心地よい暮らしを演出します。

「大工さんが釘隠しの木を細工してくださいって、うれしかった」とお客様。「認証かこしま材」を使用するなど、素材にもつだわっています。

3 ありのままの「素質」 成長し続ける家風

鹿児島で生まれ育った「自然素材」を活かし、この土地の職人の知恵と技術で「デザインした「鹿児島の家～素み家～」。地産地消の住まいは、快適で心地よい暮らしを演出します。

「大工さんが釘隠しの木を細工してくださいって、うれしかった」とお客様。「認証かこしま材」を使用するなど、素材にもつだわっています。



お客様の希望や想いを形にしたところ 今回の受賞につながった『鹿児島の家～素み家』

当社「MOOK HOUSE」の「鹿児島の家～素み家～」が2021年度グッドデザイン賞を受賞。担当の建築士・西竜哉さんは、「本当にお客様のおかけです。いのち空間を形にしたら、グッドデザイン賞にびったりだったという感じなんです」とやや照れた様子で話します。

「お客様は家づくりをとても楽しんでいらっしゃいました。間取りや生活動線、収納についても、こうしたいと明確な希望を持たれていたので、私はそれらを図面に反映していきました」と西さん。お客様

はMOOK HOUSEの雰囲気や木の香り、落ち着いた風合いのシラス壁などをとても気に入っていたそうです。「観葉植物を愛でたり、インテリアにもこだわりがあり、家づくりでも自然素材を好みます。これからもきれいに保つて暮らしていきたいです」とお話をもらいました。



建築士 西 竜哉 ◆にしだつや
設計部企画設計課所属。2012年入社。
生産設計課を経て、現在はプランナーとして「お客様の理想の住まいづくり」を目指す。日々、新しいアイデアやひらめきを求めて街の建物をリサーチしている。『鹿児島の家～素み家』にてグッドデザイン賞を受賞した。